

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18320108
 研究課題名（和文） 近代グローバル化のなかの瀬戸内海地域—東アジア社会における
 外来と在来の視座から—
 研究課題名（英文） The Study on SETO Inland Sea Area in modern globalization -the
 historical study in the view point of comparing Eastern Asia areas-
 研究代表者
 勝部 真人 (KATSUBE MAKOTO)
 広島大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：10136012

研究分野：日本近代史

科研費の分科・細目：人文・日本史

キーワード：近代東アジア・外来・在来・瀬戸内海地域・地域的特質・伝統的文化性

1. 研究計画の概要

(1)時代と地域の設定

- ①19～20世紀前半期の瀬戸内海地域
- ②同時期の中国（華北・華中地域）・韓国（朝鮮半島南部…全羅道など）・琉球

(2)研究方法

- ①農村・周辺地域における産業・経済・技術などの局面で、近代西洋からの影響を伝統的文化性のなかでどう受容しているかを検討する。
- ②受容のしかたのなかに現れる東アジア社会各地域の特質を抽出する。
- ③東アジア各地域との比較をとおして、瀬戸内海地域の特質を明らかにしていく。

2. 研究の進捗状況

これまでの3年間の研究において、各メンバーの研究発表と議論のなかで、東アジアの農村社会における「外来」と「在来」の実証的な歴史像が成果として蓄積されてきた。たとえば日中朝3国の農民組織化をめぐる村落社会と組織のありよう、植民地期朝鮮の日本を經由した新しい稲作技術導入と地域社会、中国農村における木綿栽培や綿織物生産をめぐる新しい動向と在来様式の並行的発展などの姿である。

これらをもとに、2008年度社会経済史学会全国大会でパネルディスカッションを組織し、その成果を学界に問うた。

さらに2009年度には史学研究会での大会シンポジウムを予定して、現在その準備を進めつつある。また全体の成果を1冊にまとめて公刊する予定であり、2009年夏に原稿を取り揃えることになっている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

上述したように、研究の成果を全国学会発表の形で示すことができ、他のパネルと比較しても参加者を多く集めることができるなど、一定の反響を得ている。

ただし、問題点も浮かんできている。1つは瀬戸内海地域を焦点に東アジア各地域と比較すべきところが、中国内の地域差あるいは韓国との差が大きすぎて、日本のなかでの瀬戸内海地域の特質という点にまで未だ迫り得ていないこと、2つに「外来」と「在来」に関して理論的な切り口がまだ絞りきれず、なお模索の最中にある点である。現在その点が議論の焦点となっている。

4. 今後の研究の推進方策

上述の問題点のうち②を克服するために、藤本隆宏氏のアーキテクチャに関する東アジア内の差という議論をもとにその歴史的なアプローチを行うための方法論を今年度中に議論し、改めて学会発表を行う予定である。①については地域比較の理論的フレームを議論しつつあるが、課題はまだ今後に残されている。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計18件）

勝部真人「日中戦時下における山口県の産業組合」、相良英輔先生退職記念論叢刊行会編『たたら製鉄・石見銀山と地域社会』清文堂、2008年、査読無、339-359頁

勝部眞人・佐藤靖裕『芸備日々新聞』における厳島関連記事」(3)、『内海文化研究紀要』、査読無、36号、2008年、29-73頁

勝部眞人・佐藤靖裕『芸備日々新聞』における厳島関連記事」(4)、『内海文化研究紀要』、査読無、37号、2009年、15-50頁

真栄平房昭「海産物交易—『竜涎香』をめぐって—」、桃木至朗編『海域アジア史入門』岩波書店、査読有、2008年、190-198頁

真栄平房昭「戦時下における国家主義と『御真影』」、神戸女学院史料室『学院史料』、査読無、22号、2008年、29-46頁

真栄平房昭「明朝の海禁政策と琉球」、『交通史研究』、査読有、67号、2008年、61-76頁

真栄平房昭「琉球王国と海域アジア」、『海路』海鳥社、査読無、2009年、70-79頁

有本寛・坂根嘉弘「小作争議の府県パネルデータ分析—1915～29年日本の労働市場と農業再編—」、『社会経済史学』、査読有、73-5号、2008年、65-82頁

坂根嘉弘「日本における戦時期農地・農地政策関係資料(14)」、『広島大学経済論叢』、査読無、31-3号、2008年、65-104頁

坂根嘉弘「日本における戦時期農地・農地政策関係資料(15)」、『広島大学経済論叢』、査読無、32-1号、2008年、59-70頁

有本寛・坂根嘉弘「小作争議の郡パネルデータ分析—群馬、岐阜、京都、岡山を対象に—」、『広島大学経済論叢』、査読無、32-2号、2008年、111-124頁

斉藤利佳・坂根嘉弘「戦時期・戦後改革期農地委員会の年齢構成に関する基礎研究」、『農業史研究』、査読有、43号、2009年、49-58頁

弁納才一「近代中国の農村経済と食糧事情」、『歴史と地理』、査読無、611号、2008年、47-50頁

中山富廣「明治前期における中国山地の地主小作関係」、相良英輔先生退職記念論叢刊行会編『たたら製鉄・石見銀山と地域社会』清文堂、2008年、査読無、275-300頁

中山富廣「近世厳島研究序説—その経済的基盤と観光産業—」、『厳島研究』、査読無、4号、2008年、9-23頁

中山富廣「近世安芸国の山稼ぎ業と城下町」、広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設『内海文化研究紀要』、査読無、36号、2008年、19-32頁

張楓「戦前期済南地方紡績企業の成立と展開—魯豊・成通・仁豊紡績を中心に—」、『広島東洋史学報』、査読有、13号、200

8年、49-69頁

張楓「在来産業としての下駄産業史研究の現状と課題」社会経済史学会中国四国部会『会報』、査読無、34号、2008年、1-5頁

[学会発表] (計 1件)

勝部眞人・弁納才一・張楓・蘇淳烈、「東アジア農村社会における“外来”と“在来”—生産・技術・経済をめぐるダイナミズム—」、社会経済史学会第77回全国大会パネルディスカッション、2008年9月28日、広島大学

[図書] (計 3件)

弁納才一・鶴園 裕編著、お茶の水書房『東アジア共生の歴史的基礎』、2008年、342頁

今西一編著・坂根嘉弘共著、日本経済評論社、『世界システムと東アジア—小経営・国内植民地・植民地近代』、2008年、269頁

岸田裕之・西別府元日・勝部眞人・中山富廣他共編著、山川出版社、『広島県の歴史散歩』、2009年、334頁